

宇良田タダ子(中村唯) 眼科医。勝気で日本初の女ドクトルとなり、満州病院を繁盛させるなど稀に見る事業家的手腕。

うらたただこ

明治6年政変 1873 = 熊本県天草郡牛深で、漢方医宇良田玄影の次女に生まれる。母はキシ。

西南戦争・1877 = 4歳：一家で上京するも、父が発行していた{憂国議事新聞}が廃刊となり、牛深へ帰る。

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 7歳：公立牛深小学校に入学。

明治14年政変 1881 = 8歳：

新体詩抄・1882 = 9歳：潮西・潮東小学校に分校となり、

帝国憲法発布 1889 = 16歳：潮東小学校を卒業。

帝国議会始 1890 = 17歳：魚問屋をしている人との縁談が持ち上り、これを嫌って式の当夜姿を消す。隠れ家から連れ戻されたが、医師になることに了解を得て、親戚にあたる熊本市新細工町の毒消丸の本舗吉田順硯の家に住込み、その援助を受けて、私立熊本薬学校に入学、

足尾鉞毒始 1891 = 18歳：

大本教・ ・ ・ 1892 = 19歳：卒業し、薬剤師学科・実地試験に合格、

日清戦争始 1894 = 21歳：薬剤師免状を受ける。

白馬会・ ・ ・ 1896 = 23歳：熊本の新細工町で父玄彰と漢方薬局を開業するが、医師になることを熱望して、薬局をたたみ上京、女子学生の入学を唯一見とめていた医学校{済生学舎}に入学、

八幡製鉄始 1897 = 24歳：医術開業前期試験に合格、

子規句歌革新 1898 = 25歳：続いて、後期試験にも合格し、

Bushidou・ ・ 1899 = 26歳：通常の半分の1年半で修了し、郷里の先輩北里柴三郎の伝染病研究所に入る。*開業免許を受け、

ビア/国産化 1900 = 27歳：故郷の母に懇願されて牛深へ帰って開業するが、牛深に多かった眼病を研究したく、

田中正造直訴 1901 = 28歳：留学を目指して上京、独学でドイツ語、英語を勉強。

日比谷公園 1903 = 30歳：*眼科学の研究のためドイツに渡り、女医を受入れてくれるマールブルク大学に入学、

この間、郷里で父が死去。

日露戦争終 1905 = 32歳：大学よりドクトル・メディツィーネの称号を授与され、日本女性初の学位をもって帰国し、帰郷。念願の眼科医院を牛深で開業するが、業績を知った東京の学習院女子部からの熱心な誘いで上京し、

満鉄発足・ ・ 1906 = 33歳：*この頃、北里の媒酌で薬剤師中村常三郎と結婚。神田連雀町で眼科医院を開業しながら教師を続ける。病気に悩む人を救うことが、自分の使命ではないのかと思ひ悩み、夫と北里を訪ね、満州の現状を聞くと、天津へと旅立ち、{同仁病院}を開院、夫は薬舗や政府指定の紙幣を印刷する印刷所を経営、

伊藤博文暗殺 1909 = 36歳：

明治天皇没 1912 = 39歳：

第一次大戦終 1918 = 45歳：

原敬首相暗殺 1921 = 48歳：

金融恐慌・ ・ 1927 = 54歳：

20余年間、中国語・ドイツ語・英語を駆使、'誰にでも公平に診療'というモットーで診療を続けるうち、

満州事変・ ・ 1931 = 58歳：

五一五事件 1932 = 59歳：夫が死去した上、

帝人疑獄事件 1934 = 61歳：*満州事変の余波で病院は閉鎖となり、牛深に引揚げ、再び東京に出て開業したが、

二二六事件 1936 = 63歳：肝臓がんで、没した。

インターネット、